

第21回「列島縦断AMR対策 事例紹介シリーズ」で、自治体初の「AMR対策推進のまち・姫路市の取り組み」をご紹介します <https://amr.ncgm.go.jp/case-study/>



薬剤耐性の問題は、世界で取り組むべき大きな課題となっています。日本において2016年に「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」が発表され、それに基づいた取り組みが行われています。

兵庫県姫路市では、2021年度に開催されたWHO西太平洋地域委員会のホストシティとして、同委員会の開催に合わせて実施した、国際オンラインシンポジウム「AMRという健康危機」の開催を契機に、2022年2月21日に「AMR対策推進のまち宣言」を地方自治体として初めて宣言しました。同宣言を踏まえ、市をあげてAMR対策の啓発活動を行っています。2023年2月には、英国政府AMR特使でありトリニティ・カレッジ(ケンブリッジ大学)の第40代学長を務めるグローバルヘルスの第一人者、Dame Sally Davies先生が姫路市を視察訪問されました。

当センターでは、地域でのAMR対策の取り組みを「列島縦断 AMR対策 事例紹介シリーズ」と称し、情報サイトに連載して全国のみなさまにお届けしています。今回は、全国に先駆けて自治体として啓発活動を推進する姫路市の取り組み活動を紹介します。姫路市のAMR対策の啓発活動やまち宣言に至るまでの経緯や実際の取り組みなどについて、清元秀泰姫路市長、北窓隆子姫路市医監、そして姫路赤十字病院副院長の中村進一郎先生にお話を伺い、記事として掲載しています。ぜひ、ご一読いただき、地域でAMR対策活動を盛り上げる一助としていただければ幸いです。



姫路市「AMR対策推進のまち宣言」

細菌に対して薬が効かなくなる薬剤耐性、すなわちAMRの問題については、このまま対策が取られなければ、将来多くの人命が失われると予測されており、世界規模でAMR対策の取組が進められています。

AMRは人類共通の脅威として国際的な問題となっていますが、姫路市としても危機感を共有し、私たち一人ひとりがAMRの危険性とその対策の重要性を認識し、知識や理解を深めます。

また、地球上の人や動物、環境を一体としてとらえ保健衛生に取り組むワンヘルス・アプローチの視野に立ち、医療や畜水産等の分野における抗菌生物剤の適正使用を推進します。

姫路市は、AMRが原因で亡くなる市民が一人でも少なくなることを目指し、ここに「AMR対策推進のまち」とすることを宣言します。

令和4年(2022年)2月
姫路市長 清元秀泰



清元 秀泰 氏
兵庫県姫路市長



北窓 隆子 氏
姫路市医監



中村 進一郎 氏
姫路赤十字病院副院長
第一内科部長兼
肝胆脾内科部長

基礎自治体の強みを活かし市民啓発を展開

- ・代替開催を契機に自治体としてAMR対策を推進
- ・市民も巻き込みワンヘルスの観点からアプローチ
- ・まず子育て世帯からAMR対策を啓発
- ・基礎自治体だからこそできる市民啓発を
- ・感染症非専門の医療従事者に向けてセミナーを開催
- ・コロナ禍の中、いち早く「立ち合い分娩できるまち」を実現
- ・コロナ禍がもたらした様々な変化
- ・いかに全世代の市民に向けて認識を広げるか



「AMR対策臨床セミナー in 姫路」2022年11月

姫路市 MR対策推進のまち宣言について

<https://www.city.himeji.lg.jp/bousai/0000020069.html>

